

都道府県番号	29
都道府県名	奈良県

【 ✓ ✓ 】

学校名及び規模

学校名	吉野町立吉野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	16
児童数	29	29	36	32	37	36	4	203	

研究の概要

(1) 研究主題

「生きる力」を育てる少人数指導の在り方を求めて 個が生きる学習活動の創造

(2) 研究主題設定の趣旨

「学力向上フロンティア事業の趣旨」を踏まえ、少人数指導を中心とした個に応じた指導の研究を推進することで、指導要領に示された「自ら学び、自ら考える力の育成」「基礎・基本の確実な定着と、個を生かす教育の充実」「創意工夫を生かした特色ある学校づくり」に迫ることができるのではないか。そして、これらを具現化していくことで、児童一人一人に、今日求められている「生きる力」を育ていけるのではないかと考え、本主題を設定した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

本校では、本年度、県から1名(常勤)と、町から2名(非常勤)の講師の配置を受け、全学年の算数科と国語科で少人数指導を行っている。3名の少人数担当者がそれぞれ1・2年生、3・4年生、5・6年生を担当し、学級担任と協力して、指導形態、学習展開、評価、支援、教材・教具などについて工夫や改善を行いながら主題に迫る研究を進めている。

(2) 研究の実際

《特色ある取組事例》

2年生 かけ算九九の確実な定着を目指して

1 単元について

2年生におけるかけ算九九の単元は、以後の学年で取り扱う乗法の計算の基礎的な技能を身に付ける大変重要で、しかも、50時間をかけて学習する大きな単元である。高学年の先生から「九九が定着していないことが新しい学習に大きく支障をきたす。改めて学習し直すこともなかなか難しい。2年生の間に何とか定着させておいてほしい。」という声をよく耳にしていた。2年生担任、少人数指導担当者として、できる限り体験的な活動や身近な生活体験などと結びつけるなどして、児童が意欲をもち続けながら取り組めるような指導の仕方を工夫し、すべての段の九九について確実に意味を理解させ、暗記させることを目指して取り組んだ。

2 指導計画、指導形態の工夫

単元の導入段階では、同室複数指導で、「こずつ つ分(の倍)」という考え方を共通理解させるようにした。九九の学習に入ってから、各段3時間の学習時間の内、先の2時間は、均等割少数指導で2クラスとも同じ内容の学習を行い、3時間目は、「九九を覚えているかどうか」ということを判断基準として自主選択させた習熟度別の少人数指導を行った。

例 6の段の指導計画(3時間)

分節名	配当時間	指導形態	指導内容	ねらい	
6の段の九九	3	1	均等割少数	<ul style="list-style-type: none"> ・6の段の九九の構成唱え方 ・九九を覚える九九の適用問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童の作業、活動の様子を把握する ・九九を覚えている状況を把握する ・発表回数など、児童の活動場面を多くする
		1	分かれ方 出席番号 席の列		
		1	習熟度別少数 判断基準 九九を覚えているかどうか	<ul style="list-style-type: none"> ・九九の適用問題 	<ul style="list-style-type: none"> ゆったりコース ・意味理解の確実な定着を目指す <hr/> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジコース ・九九を活用して多様な問題を解く力を身に付けさせる

均等割少数指導では、担任と少人数担当が交代で指導案を作成し、同じ内容の指導を行った。また、習熟度別少数指導では、各担当が指導案を作成した。

かけ算の前半部(4の段まで)の終了時点で、後半に向けて、個々の九九の暗記、定着度を確かめるための問題に挑戦する時間を設けた。

3 教材教具の工夫や働きかけ

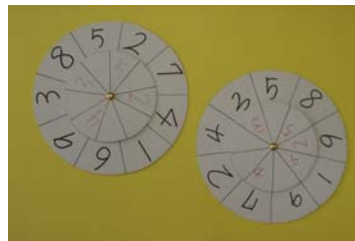
	使う場面・場所	使い方	効果
ワークシート	九九構成	<ul style="list-style-type: none"> ・九九構成を図で作成する ・かけ算式、求答式、気付いたことを記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こずつ つ分」の理解を深められる ・個々のペースで学習できる
ルーレット(大)	口のたいそう	<ul style="list-style-type: none"> ・バラバラ九九の問題として 	<ul style="list-style-type: none"> ・動くものを利用して楽しく学習できる
ルーレット(小)	九九暗唱練習		
九九おみくじ			
九九絵カード	九九の意味理解	<ul style="list-style-type: none"> ・「こずつ つ分」を問う問題として 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こずつ つ分」の意味理解

九九 がんばりカード	九九暗唱チェック	・九九の暗唱の確認として	・定着度をこまめに把握できる
口のたいそう	授業の始めに	・声に出してリズム良く暗唱	・早く唱えることで集中できる
九九暗唱表	教室の出入り口	・教室の入退出時に九九の暗唱 を行う	・唱えて覚える

毎日、宿題プリントを作り、復習させた。授業中につまずきの見られた内容を中心に、九九の暗記、意味理解を図る問題を作成した。また、そのでき具合を4段階に分けて記録をとり、個々の定着度を一目で分かるようにした。(評価補助簿の工夫)



九九がんばりカード



ルーレット(小)



九九みくじ



ルーレット(大)



九九暗唱表



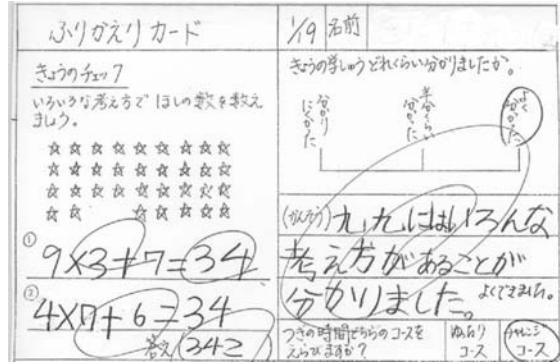
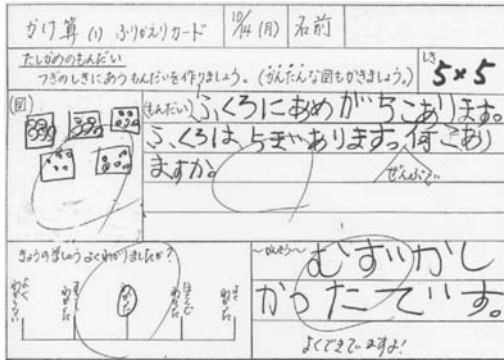
算数コーナー

4 振り返りカードの工夫

振り返りカードには、まず、「今日のチェック」コーナーを設け、その日の学習内容に合った問題を提示して解かせることで、学習内容を振り返ることができるようにした。

次に、今日の学習が「よく分かった」「半分くらい分かった」「分かりにくかった」の3項目から選ぶチェックコーナーも設けた。これは、児童自身が学習についての理解度を確かめられるとともに、指導者も、指導の内容や方法が適切であったかどうかを把握できるようにしたものである。そして、最後には、記述式で、学習の中で「分かったこと」「楽しかったこと」「分からなかったこと」を書くようにした。

このような工夫をすることで、学習内容の理解度を毎時間きちんと把握することができたとともに、児童個々の思いや興味深い意見も知ることができ、次の学習に向けて参考となる資料を得ることができた。中には、チェック問題はよくできているのに、自信がない、分からないと答えている児童がいたことで、自信をもたせるような取組の必要性を感じさせられたこともあった。



5 学習内容の定着の様子

- ・ 九九の意味理解に関しては、九九構成を図で作成するワークシートを用いて、自分の力で作り上げていく活動を継続して行ったこと、また、お話問題を解いたり作ったりする学習では、図やおはじきを使って表す活動を取り入れたことが、児童に九九構成の意味を定着させる上で効果があったと思われる。
- ・ 九九の暗記に関しては、九九 50 問を 5 分間で行うテストを何度か行ったところ、時間内にできた児童は 29 名中 26 名。そのほぼ全員が正答率 90% 以上で、5 分以内でできなかった児童 3 名についても時間はかかるものの 7 分～8 分以内にはでき、正答率も 80～90% であった。
- ・ また、3 学期に入ってから、授業の前に 10 問の「九九にチャレンジ」を行っている。これは、教師が口頭で出題する 10 問の九九を聞いて、早く正確に答えるテストである。毎時間 2 回ずつ行う。その結果は約 20 名がほぼ 100% 合格、残りの 10 名もばらつきはあるものの、間違いは多くても 3 問までという結果である。
- ・ 九九がんばりカードは、現在も挑戦中であるが、ほぼ全員が確実に合格に近付いている。
- ・ 3 学期に入り、意味理解の定着を確認すると、かけられる数、かける数が逆になっていたり、以前はできていたのに今回は... というような不安定さが見られたりする児童が 4～5 名いた。また、九九の活用については、どのように活用すればよいのか「ひらめき」にはつながりにくい児童が半数ぐらいまでに増えていたというのが現状である。
- ・ 対策として、宿題プリントやはげみの時間、算数コーナーを利用して、様々なタイプの問題に挑戦させることで、活用する力を身に付けさせる取組を継続している。

(3) 研究の成果と課題

〔ゆったりコース〕

「九九の暗記は大丈夫だが、九九の意味がわかりにくい」という児童を中心に学習を進めてきた。学習内容は、いろいろな問題に取り組みさせる中で、その問題を絵で表したり、図で表したり、おはじきで表したりと、視覚にうったえながら理解させる方法を積み重ねてきた。多様なパターンで取り組みさせることで、児童の理解が深まってきた。

〔チャレンジコース〕

チャレンジコースでは、九九の確実な暗記、意味理解、九九を活用しての問題解決能力の育成に力を入れてきた。児童は、問題を解く楽しさや解ける喜びを感じて、生き生きと活動する姿を何度も見せてくれた。今後も、児童の挑戦する意欲を満たしてやれるような授業を工夫していきたい。

〔共通〕

九九の単元の学習では、特に「九九の確実な定着」を目指して、児童が興味をもって主体的に取り組むことを中心に学習を進めてきた。同じ学習内容の繰り返しの中で、九九の構成段階ではワークシートに工夫を凝らしたり、定着を図る段階では、体全体を使って取り組める教材を工夫したり、また、適用段階では、いろいろな問題に自主的に挑戦できるような工夫を試みたりと、児童が楽しく意欲的に取り組めるようにしてきた。

結果として、「かけ算の九九の定着」は概ね達成されつつあると同時に、「九九は楽しい」と感じている児童が、ほぼ全員といえるまでになった。また、保護者からも「九九の学習を心配していたけれど、楽しそうに覚えているので安心しました。」という声がたくさん寄せられた。児童が「意欲満々に取り組んだ学習」は、素晴らしい成果をいくつももたらしてくれた。

この長い単元の指導では、指導案の作成、教材教具の作成、担任と少人数指導者との打合せ、各コースの児童についての共通理解や情報交換などに大変多くの時間がかかった。しかし、指導を終えてみると、児童が楽しく取り組んでくれたこと、そして何より、九九の定着に関して思った以上の成果が得られたことが一番の収穫である。一つ一つのことは小さくとも、その積み重ねが児童の「確かな学力」の育成に大きく繋がっていることが、今回の取組で実感できた。この思いを糧に、今後も実践を重ねていきたい。

(4) 研究成果の普及の方策

県内各校より約 80 名の参加を得て実施した中間発表会（平成 15 年 11 月 20 日）で授業を公開し取組を紹介した。

【新規校・継続校】 ✓ 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 ✓ 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 ✓ 少人数指導 ✓ T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 ✓ 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ✓ 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント（都道府県教育委員会記入）】

算数科における習熟の程度に応じた少人数指導の中で、教材教具の活用とその効果について、学習内容の定着という観点から紹介している。